

●新造艦船彈火藥庫裝規程

大正九年一月二十日(內令)
(一三)

改正 大正十年十二月五〇六號

新造艦船彈火藥庫裝規程別冊ノ通定云

(別冊)

新造艦船彈火藥庫裝規程目次

第一章 總 則

第二章 彈火藥庫並附屬諸設備

第一節 通 則

第二節 砲火藥庫

第一款 位置及構造

第二款 周圍ノ設備

第三款 防熱裝置

第四款 冷却機械及冷却裝置

第五款 通風裝置

第六款 注水裝置

第七款 諸管裝置

第八款 電燈及諸電路裝置

第九款 防焰裝置

第十款 檢溫檢濕裝置

第十一款 裝藥類格納裝置

第三節 彈藥庫

第四節 黑色火藥庫

第五節 水雷火藥庫

第六節 禮砲火藥庫及信號用火工品庫

第七節 火工品類格納所(庫)

第八節 彈庫

第九節 彈火藥ノ積卸ニ關スル設備

新造艦船彈火藥庫裝設規程

第一章 總則

第一條 軍艦(砲艦ヲ除ク)ノ彈火藥庫並附屬諸設備ノ裝設ニ關スル計畫、工事及檢査規格ノ一般ハ特ニ規定アルモノノ外本規程ニ依ル、砲艦、驅逐艦、潛水艦ニ在リテハ本規程ニ明示ナキモノハ爲シ得ル範圍ニ於テ又特務船ハ其ノ種別ニ應シ本規程ニ準據スルモノトス

第二條 已ムヲ得スシテ本規程又ハ特ニ定メラレタル規定以外ノ裝設ヲ必要トスル場合ニハ其ノ事項ヲ裝設要領書ニ記載シ其ノ重要ナルモノニ在リテハ豫メ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第二章 彈火藥庫並附屬諸設備

第一節 通則

第三條 砲火藥庫及彈藥庫ハ其ノ溫度ヲ常ニ攝氏七度乃至二十一度間ニ於テ可成平低ナラシムルト同時ニ其ノ濕度ヲ常ニ百分ノ八十以下ニ保タシムルヲ原則トス其ノ他ノ彈火藥庫ニ在テハ自然ノ狀態ニ於テ可成低溫度低濕度ニ保タシムルヲ要ス

第四條 彈火藥庫ニ屬スル鎖鑰裝置附扉、蓋、把手等ハ之ニ鎖鑰ヲ設クルノ主旨ニ副フ如ク堅牢ニシテ容易ニ取外シ得サル如ク構成スルヲ要ス

第五條 彈火藥庫内ニ裝備スル一切ノ木材其ノ他防熱材料等ハ充分乾燥セルモノヲ用ヒ特ニ砲火藥庫及彈火藥庫ニ在テハ香氣少キモノヲ使用スルヲ要ス

第六條 彈火藥庫ノ冷却裝置ハ砲火藥庫及彈藥庫ニ限リ之ヲ裝備スルモノトス

第七條 彈火藥庫用通風機械竝ニ通風管ハ一般通風系統トハ獨立トシ且彈庫ト砲火藥庫ニモ各別個ニ裝備スルヲ原則トス尚ホ通風機械竝ニ通風管ニ對シテハ通風ノ効率ヲ最大ナラシムルト同時ニ所要ノ氣密及水密ヲ確實ナラシムルヲ要ス

第八條 彈火藥庫及換裝室ニ通スル通風管ノ庫外開口ハ他物ノ吸込其ノ他ノ危險ヲ防止スル如クシ尙ホ給氣及排氣口ノ位置ハ彈火藥庫内ニ新鮮ナル空氣ヲ供給スル如ク選定スルヲ要ス

第九條 彈火藥庫注水裝置ノ諸弁ハ左ノ如ク裝備スルモノトス

(一) 海水弁ハ彈火藥庫注水用トシテ獨立ニ最外部ニ設クルヲ原則トス

(二) 漲水弁ハ各火藥庫毎ニ之ヲ設ク

(三) 漲水其弁ハ海水弁カ彈火藥庫以外ノ裝置ト共通ナル場合ニ限リ漲水弁ノ外方ニ設ク

第十條 彈火藥庫ニハ注水時ニ應スル爲自働排氣弁附排氣管ヲ設ケ各庫毎ニ獨立ノ開口ヲ有セシムルヲ要ス

第十一條 彈火藥庫ニハ排水裝置ヲ設ケサルモノトス

第十二條 彈火藥庫ニ屬スル各種弁嘴子等ノ把手ハ可成散在セサル如クシ且ツ之等ニ對スル名稱、記號及開閉ノ示標ハ下甲板等ノ薄暗キ場所ニ在リテモ識別容易ニシテ火急ノ際取扱上ノ錯誤ヲ生セサル如ク形狀、大サ竝ニ其ノ字體ヲ選定シ可成船體部ニ装着シ赤地ニ白色ノ文字ヲ用フルモノトス

第十三條 彈火藥庫用檢溫檢濕器ノ裝備位置ハ裝設完成後冷却通風等ノ試驗ノ結果ニヨリ之ヲ決定スルモノトス

第十四條 砲艦及驅逐艦以下ニ於テ彈火藥庫直上ノ甲板ニ暖爐ヲ設クル必要アル場合ニハ彈火藥庫ニ對シ熱ノ影響最少キ位

置ヲ選ヒ且適當ナル防熱裝置ヲ設クルヲ要ス

第十四條 彈火藥庫用鎖鑰裝置ハ大正九年內令第八號艦船彈火藥庫鎖鑰竝ニ取締規則ニ據リ又彈藥庫用鍵箱ノ構造ハ技術本部制定ノ制式圖ニ據ル

第十五條 彈火藥庫內ニ裝備スヘキ戰時用飲水罐ノ構造ハ技術本部制定ノ制式圖ニ據ル

第十六條 彈火藥庫ノ注水裝置ハ砲艦及驅逐艦以下ニハ之ヲ裝備セサルモノトス

第十七條 彈火藥庫ノ防熱冷却及通風裝置ハ砲艦及驅逐艦以下ニアリテハ特ニ規定アルモノノ外適宜省略スルコトヲ得

第二節 砲火藥庫

第一款 位置及構造

第十八條 砲火藥庫ハ戰鬪ニ對シテ最モ安全且ツ便利ニシテ貯藏及保安上適良ナル位置ニ之ヲ設クルヲ原則トス

第十九條 砲火藥庫ハ彈庫ト重疊シテ設クル場合ニハ之ヲ彈庫ノ下位ニ置クモノトス

第二十條 砲火藥庫ハ火藥罐等ノ出入取扱及人員ノ作業ニ適シ且ツ冷却ヲ有効齊一ナラシムル爲相當ノ高さ及充分ナル餘積アルヲ要ス

第二十一條 砲火藥庫ハ上下四周鋼板ヲ以テ水密ニ圍繞シ其ノ入口ニハ防水用竝防熱用ノ二重扉ヲ裝備シ且入口附近ニ特ニ高溫ノ場所アルトキハ二重扉ノ間ニ空室ヲ設クルモノトス但シ小艦船ニ於テ餘積少キタメ二重扉ヲ裝備シ能ハサル場合ハ防水、防熱兼用ノ單扉トナスコトヲ得

第二十二條 砲火藥庫ニハ裝藥格納中萬一不時ノ災害ヲ發生スルコトアルモ其ノ毀害ヲ局部ニ制限スル爲火藥庫ノ形狀大小等ニ適應スル瓦斯逃出口ヲ設クルモノトス其ノ構造位置等ニ

關シテハ別ニ之ヲ定ム

但シ砲艦及驅逐艦以下ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
第二十三條 砲火藥庫內ニハ上下四周ノ區劃空所等ニ入ルヘキ潛孔ヲ設ケサルヲ原則トス

但シ小艦船ニ於テハ已ムヲ得サル場合ニ限り之ヲ設クルコトヲ得

第二款 周圍ノ設備

第二十四條 砲火藥庫ノ上下四周ニハ空所ヲ設クルヲ要ス

但シ他ノ彈火藥庫ニ隣接スル部分ハ此ノ限リニアラス又小艦船ニ於テ已ムヲ得サルモノハ之ヲ設ケサルコトヲ得尙艦ノ構造上火藥庫ノ兩側ニ隣接シテ設クル軸路ハ之ヲ空所ト看做スコトヲ得

第二十五條 砲火藥庫ニ接スル空所ハ爲シ得ル限リ諸管等ヲ通過セシメサルヲ要ス

第二十六條 砲火藥庫ニ隣接シテ重油庫ヲ設クル場合ニハ其ノ間ニ特ニ二重ノ空所ヲ置クヲ要ス

但シ豫備重油庫ヲ設クル場合及小艦船ニ在テハ之ヲ一空所トナスコトヲ得

第二十七條 砲火藥庫ノ周圍及上下ニ空所ナキ場合ニハ之ニ隣接シテ左記物品ノ裝備又ハ格納所等ヲ設クヘカラス

(一) 可燃性物品

(イ) 石炭、重輕油

(ロ) 薪炭、礦油、動植物油、溶解シタル塗料

(ハ) 火酒類、被服類、帆布類、麻綱類、木綿類、糸屑類、紙類

(二) 熱源トナルモノ

生石炭、機關部ニ附屬スル疏水及給水「タンク」等

- (三) 人員ノ出入ニヨリ間接ニ火災ノ原因トナルモノ
酒類、罐詰類其他酒保物品用倉庫及諸事務室等
但シ(一)ノ(イ)(ロ)及(二)以外ハ輕巡洋艦以下ニ又
(一)ノ(イ)以外ハ砲艦及驅逐艦以下ニ適用セサルコト
ヲ得

第三款 防熱裝置

第二十八條 砲火藥庫ノ防熱裝置ハ左記ニ據ルヘシ
砲火藥庫ノ内面(他ノ砲火藥庫トノ共通壁面ヲ除ク)ハ上下
四周共連續セル防熱裝置ヲ施スヘシ即チ鋼材面ニ厚サ約四分
ノ一吋ノ石棉(セメント)板若クハ礦渣(スラック)盤等ノ如キ不燃物質ヲ張
リ詰メ其ノ上ニ厚サ適宜ノ「コークボード」ヲ張り薄キ金屬
板ヲ以テ其ノ表面ヲ被覆スルモノトス
但シ床面ニアリテハ「コークボード」ノ上ニ厚サ約一吋半ノ
木板ヲ張り更ニ其ノ全面ニ瓦リテ「リノリウム」ヲ貼敷スル
モノトス

第四款 冷却機械及冷却裝置

第二十九條 砲火藥庫ニ附屬スル冷却機械ノ種類竝ニ力量ハ左
ノ如クナルヲ要ス

- (一) 砲火藥庫用冷却機械ハ海水溫度及氣溫ノ變化ニ依リ効
率ニ大ナル影響ヲ受ケサルモノナルヲ要シ尙特種ノ瓦
斯ヲ使用セサルモノヲ可トス
(二) 砲火藥庫用冷却機械ノ濃鹽管ハ製氷機械ノ濃鹽管ト連
絡セシメサルヲ可トス
(三) 砲火藥庫用冷却機械ノ總力量ハ冷却機室内ノ氣溫攝氏
四十九度(華氏百二十度)海水溫度攝氏三十二度(華
氏九十度)ノ場合ニ於テ一旦火藥庫カ所定裝藥格納ノ
状態ニ於テ其準溫度以下ニ冷却セラレタル後毎二十四

- 時間内ニ八時間乃至十二時間冷却スレハ各火藥庫ヲ基
準溫度以下ニ保持シ得ルモノナルヲ要ス
(四) 砲火藥庫用各冷却機械ハ可成力量相等シキモノトシ一
砲塔砲火藥庫竝ニ其ノ附近ノモノニ對シ一個以上ヲ火
藥庫ニ近キ防禦區劃内ニ裝備スルヲ要ス
(五) 輕巡洋艦以下ニアリテハ第三項以外ハ適宜ナルモ砲火
藥庫用冷却機械及製氷機械ハ必要ノ時機ニ限り相互兼
用シ得ル如クシ常時ハ各獨立ニ使用スルモノトス

第三十條 冷却裝置ノ裝備法左ノ如シ

- (一) 冷却裝置ハ一般ニ間接式ヲ採用スルヲ原則トス
(二) 冷却機械ハ之ヲ前後二群ニ分チ各其ノ一群ニ屬スル濃
鹽管ハ互ニ連絡セシムルヲ要ス但シ各群ノ一方若クハ
双方共ニ一臺ナル場合ニハ兩群ヲ連絡セシムルモノト
ス
(三) 各冷房(カウリング)ハ可成力量相等シキモノトス
(四) 冷房ハ所屬砲火藥庫ニ近キ低溫ノ防禦區劃内ニ裝備ス
ルヲ要ス但シ輕巡洋艦以下ニアリテハ特ニ防禦區劃内
ナルヲ要セス
(五) 冷却機械ヨリ冷房ニ至ル濃鹽管竝ニ砲火藥庫ニ導カル
ル冷却管筒ハ充分防熱シ高溫ノ箇所ヲ避ケ且ツ蒸氣管
ノ如キ熱源ト隔離裝備スヘシ
尙ホ傳熱ノ傾向多キ隔壁等ヲ通過スル場合ニハ其ノ水
防ヲ害セサル程度ニ於テ完全ナル防熱裝置ヲ設クルヲ
要ス
(六) 庫内冷氣管ハ天井ニ近ク庫壁ニ沿ヒテ一周シ可成冷氣
ヲ火藥罐ノ各部ニ普及セシムル如ク設備スルヲ要ス
排氣口ハ砲火藥庫ノ中央部天井ニ近ク適當ノ位置ニ設

(八) ケ給氣口ト相俟ツテ庫内ノ冷氣循環ヲ完全ナラシメ以テ局部高温ノ箇所ヲ生セシメサル如ク整備スルヲ要ス已ムヲ得スシテ直接式ヲ用ユルモノニアリテハ庫内ヲ一樣ニ冷却セシムル如ク可成天井一面ニ濃鹽管ヲ敷設シ尙特ニ高温ノ室ニ接スル側壁ニモ之ヲ整備スルモノトス而シテ濃鹽管ノ露受ハ真鍮板製トシ天井ニ整備スルモノニハ冷氣ノ循環ヲ良好ナラシムル様多數ノ孔ヲ穿チ且疏水ニ便ナラシムル爲溝及排水管ヲ設ケ床上ニ小罐ヲ裝備シテ之ニ排水セシムル如クスルヲ要ス

第五款 通風裝置

第三十一條 砲火藥庫ノ通風裝置ハ左記ニ據ルヘシ

(一) 砲火藥庫通風機械ハ冷房附屬ノモノニアリテハ其ノ速度ヲ二段ニ調整シ得ルヲ要ス

(二) 間接式冷却裝置用通風機械(冷房附屬)ノ力量ハ庫内總容積ニ對スル空氣ヲ五分時以内ニ換氣セシムルニ足リ

(三) 且冷房ノ効率ヲ最大ナラシムル如キモノナルヲ要ス直接式冷却裝置ヲ有スル砲火藥庫ニアリテハ給氣若クハ排氣通風機械ヲ裝備シ當該庫ノ總容積ニ對スル空氣ヲ五分時以内ニ換氣セシメ得ルヲ要ス尙給氣口及排氣口ハ可成庫内反對ノ位置ニ設ケ換氣作業ヲ良好ナラシムル如ク整備スルモノトス

(四) 砲火藥庫ノ外圍高温ノ空所ニハ給氣管竝ニ排氣管ヲ設ケ何レカ一方ニ通風機械ヲ備ヘ尙特ニ高温ノ空所ニ對シテハ双方共ニ通風機械ヲ裝備スルヲ要ス

(五) 驅逐艦ノ砲火藥庫(彈藥庫)ニアリテハ露天甲板竝ニ居住室ノ何レヨリモ任意ニ給氣シ露天甲板ニ排氣セシムル如クスルヲ要ス

(六) 通風諸管ハ可成屈曲數ヲ減シ曲度半徑ヲ大ナラシムヘシ尙枝管ヲ設クル場合ニハ氣流ヲ容易ナラシムル爲本管ト小角度ニ分岐セシムヘシ

(七) 通風管ハ砲火藥庫ノ外部ニ於テハ氣密ナラシメ尙必要ナル箇所ハ水密ナラシムルヲ要ス

(八) 砲火藥庫及火藥供給室ニ通スル通風管ノ庫外開口ニハ丈夫ナル金網若クハ「ザルジ」ヲ堅固ニ取付ケ庫内開口ニハ細目金網ヲ螺着スルヲ要ス

(九) 砲火藥庫冷氣管用「マシユルム」ハ排氣管用「マシユルム」ト接近シテ設クヘカラス特ニ機關室重油庫又ハ賄所等ノ排氣口ニ對シテハ充分隔離セシムルヲ要ス

第六款 注水裝置

第三十二條 砲火藥庫ニハ其ノ所定裝藥格納ノ狀態ニ於ケル全容積ニ對シ十五分時以内(獨立若クハ同時注水ノ場合共)ニ

滿水シ得ヘキ注水裝置ヲ設クルモノトス

第三十三條 砲火藥庫ニハ漲水口ヨリスル注水裝置以外ニ別ニ

一管ヲ設ケ必要ニ應シ艦内消防主管ト連絡シ得ル如クシ庫内全面ニ互リテ散水シ得ル裝置ヲ設クルモノトス

尙該散水裝置ハ艦入渠中ニ於テモ使用シ得ル如ク渠側ノ水道ト消防主管トヲ連接スル裝置ヲ設クルヲ要ス

第三十四條 注水裝置ノ關閉位置ハ火急ノ場合ニ接近シ易ク且ツ閉閉ニ便ナル如ク露天甲板ニ主用ノモノヲ設ケ其ノ他防禦區劃内及舁附近ニ於テモ閉閉シ得ヘキ副裝置ヲ設クルヲ要ス

但シ輕巡洋艦以下ニアリテハ露天甲板及舁附近ノ二箇所ニ之ヲ設クルモノトス

第三十五條 注水弁ノ關閉裝置ハ人力ニテ輕ク閉閉シ得ル如ク

計劃シ尙左記二項ニ注意スルヲ要ス

(一) 舁罈ノ露天甲板貫通部ニ於ケル水防管ハ適當ナル高サトシ其ノ填坐ノ部ハ塵芥及海水ノ浸入ヲ防ク爲更ニ金屬覆ヲ舁罈ニ装着スルコト

(二) 露天甲板ヨリ注水弁ニ至ル間ノ舁罈ハ他物ノ衝突捲纏等ノ虞アル箇所及特ニ接合部並斜齒裝置ニハ金屬製ノ保護物ヲ設クルコト

第三十六條 艦船ニハ注水諸弁ノ閉閉試驗用トシテ左ノ設備ヲナスモノトス

(一) 各漲水口ニハ試驗ノ際注水管内ニ滯溜セル海水ノ庫内ニ進入スルヲ防止スルニ足ルヘキ適當ナル金屬蓋ヲ取付ケ得ル裝置ヲ設ク

(二) 前項ノ金屬蓋ニハ排水嘴子ヲ附シ試驗ノ際注水管内ニ滯溜セル海水ヲ少量宛確實ニ採取セシム

(三) 海水弁ト漲水弁ノ中間ニハ疏水管ヲ設ク

第七款 諸管裝置

第三十七條 蒸氣管排氣管等苟モ傳熱ノ傾向アル諸管ハ砲火藥庫ノ上下周圍ノ空所ヲ通過セシムヘカラサルハ勿論之ヨリ可成遠サクヲ要ス若シ已ムヲ得ス空所内ニ諸管等ヲ裝備スル場合ハ完全ナル防熱及防水裝置ヲ設クルヲ要ス

第三十八條 砲火藥庫ニ關係ナキ諸管等ハ庫内ヲ通過セシムヘカラス若シ已ムヲ得ス庫内ニ導ク場合ニハ完全ナル防熱及防水裝置ヲ設クルヲ要ス

第三十九條 揚藥室若クハ砲火藥庫ト彈庫間ノ通信ハ傳聲管ヲ以テスルヲ原則トス此場合ニ於ケル傳聲管ハ彈庫内ニ於テ一旦上部ニ屈曲セシメ揚藥室若クハ砲火藥庫内ノ通話口ニハ内部ニテ容易ニ開閉シ得ル防水嘴子ヲ裝備スルヲ要ス

第四十條 砲火藥庫又ハ供給室ヨリ彈庫以外ノ場所ニ通信裝置ヲ設クルノ必要アル場合ニハ高聲電話ヲ以テスルヲ要ス

第八款 電燈及諸電路裝置

第四十一條 砲火藥庫ニ關スル電氣の諸裝置ハ左記ニ據ルヘシ

(一) 砲火藥庫及同出入筒並ニ外壁ニハ一切電線ヲ敷設セサルヲ原則トシ若シ已ムヲ得スシテ敷設ヲ要スル場合ニハ次ノ方法ニ依ルヘシ

(イ) 當該庫ニ屬スル電燈用寒暖計用及通信用電線ハ適當ノ厚サヲ有スル水防ノ眞鍮管若クハ銅管内ヲ通シテ之ヲ敷設シ該管ノ接合ハ螺線式トナスヲ要ス

(ロ) 砲火藥庫ニ關係ナキ電線ヲ庫内ニ導ク場合ハ適當ノ厚サヲ有スル水防ノ金屬管(筒)内ヲ通シテ敷設スルヲ要ス而シテ該管(筒)ハ假令電路ノ一部短絡發火スルコトアルモ熱ノ爲メ開口漏火ノ虞ナク且ツ濕氣及漏水ノ爲容易ニ腐蝕穿孔スル事ナク其外部ハ不燃性防熱材ヲ以テ被覆シ燃燒シ易キ物質ニ接近セシメサル如クスヘシ

(二) 電路用貫通金物及管(筒)ノ接合部ハ特ニ注意シテ水防ヲ確實ナラシムヘシ

(三) 砲火藥庫ニハ三十二燭力金屬纖維電球ヲ使用シ電路ハ環式主電路ヲ有スル艦船ニ在リテハ兩舷各一個若クハ二個ノ給電筐ヨリ其ノ他ノモノニアリテハ配電盤上ノ二個ノ接斷器ヨリ兩舷ニ分テ可成防禦區内ニ本線ヲ導キ他ノ一般諸室諸倉庫等ニ用ユル電燈動力線ヲ分岐セシムヘカラス

(四) 庫内ノ電燈線ハ交互半數宛兩舷電路ヨリ導キ一方ノ電

路故障アル場合ニ於テモ他ノ半數ノ電燈ニテ庫内一般ヲ照明シ得ル如ク配備スヘシ但シ點滅位置以外ニ於テハ兩舷ヨリ來ル電路ハ全然隔離シテ敷設スルモノトス砲火藥庫内電燈ノ位置及數ハ庫内ノ照明ヲ有効ナラシメ且可成彈庫内ノ作業ヨリ生スル震動ヲ避クル如クスヘシ

(六) 各燈ニハ點滅器ヲ備ヘ之ヲ庫ノ入口外方附近(爲シ得ル限リ防禦區劃内)適當ノ位置ニ裝備シ同一庫ニ屬スルモノハ一箇所ニ纏メ點滅ヲ容易ニ識別シ得ル様配列スヘシ

(七) 庫ノ入口附近ノ監視ニ適當ニシテ且ツ爲シ得レハ點滅器ニ近ク二種ノ標示燈ヲ備ヘ一ハ該電燈線ニ送電ノ時ニ他ハ各庫内電燈ノ點セシ時點燈ヲ標示セシムルモノトス

(八) 電路用諸器具ハ制式圖ニ依ル

第九款 防焰裝置

第四十一條 藥囊式裝藥ヲ供給スル揚藥筒ノ下端ハ直接砲火藥庫ト交通セシメサル如ク之ヲ彈庫内又ハ特ニ火藥庫内ニ設ケタル供給室内ニ導クヲ原則トス而シテ彈庫或ハ供給室ト砲火藥庫間ノ隔壁ニハ裝藥出入ノ際ノミ開キ得ル如キ防焰の供給口ヲ設クルヲ要ス

第四十三條 砲火藥庫ト彈庫又ハ供給室間及供給室ト彈庫間ニ人員ノ出入口ヲ設クルニハ其ノ扉ハ前者ニアリテハ彈庫又ハ供給室ノ方ニノミ開キ後者ニアリテハ彈庫ノ方ニノミ開キ得ル如クシ且ツ戰闘中ハ確實ニ密閉シ得ル如ク構成スルヲ要ス
第四十四條 各揚藥筒ノ一端ニハ砲火藥庫供給口ノ開キアル間ハ必ス閉鎖セラルル如キ防焰裝置ヲ設備スルヲ要ス

第十款 檢溫檢濕裝置

第四十五條 砲火藥庫ニハ溫度濕度測定用トシテ左記ノモノヲ備フルモノトス

但シ驅逐艦及特務船等ニアリテハ檢濕器(檢濕器附)ノミヲ裝備スルモノトシ其ノ裝備方法ハ甲板若クハ適當ノ場所ヨリ庫内ニ貫通スル檢測管ヲ設ケ之カ甲板開口ハ鎖鑰裝置並水防蓋ヲ以テ塞キ該管内ニ檢濕器ヲ懸吊シ置ク如クスルモノトス

(一) 電氣寒暖計
砲火藥庫ニハ各二個以上ヲ裝備スルモノトス而シテ之等ニ對スル溫度表示器ハ他ノ彈火藥庫用ノモノト合併シテ艦ノ前後部二箇所ニ分設スルヲ例トス

(二) 檢濕器
砲火藥庫ニハ各二個宛ヲ裝備スルモノトス

(三) 警鳴器
可燃物ヲ貯藏スヘキ倉庫又ハ發熱ノ原因トナルヘキ物質ヲ裝備格納スル場所等ニ隣接スル砲火藥庫ニハ其ノ中間ニ空所ノ有無ヲ問ハス之等ニ對向スル砲火藥庫ノ内壁ニ警鳴器ヲ裝備シ其ノ鳴鐘ハ艦ノ後部適當ナル位置ニ設備スルモノトス

(四) 自記寒暖計
一艦ニ付二個宛供給セラルルモノトス

第十一款 裝藥類格納裝置

第四十六條 砲火藥庫内ニ於ケル各種裝藥類ノ積載配列ハ戰闘供給上最モ便利ナルト同時ニ貯藏狀態ヲ常ニ良好ナラシムル如クスルヲ要ス

第四十七條 砲火藥庫内ニ裝藥類ヲ格納スルニハ左ノ方法ニ依ル

(一) 藥囊式ノモノ(無煙火藥ヲ用フル) 火藥罐ニ收ム

(二) 藥英式ノモノ(發射裝藥ヲ含ム) 藥英ノ儘

(三) 彈藥罐ニ收納セルモノ 筐入ノ儘

第四十八條 砲火藥庫内火藥罐ノ收納裝置ハ火藥罐口ヲ通路ニ向ハシメ水面ト約五度ノ俯角ヲナサシムル如ク構成スヘシ

第四十九條 砲火藥庫ノ通路ハ其幅火藥罐及裝藥ノ出入取扱ニ支障ナク尙庫内ニ於テ運藥車ヲ用ユルモノニアリテハハカ操縦自在ナル如クスルヲ要ス

第五十條 火藥罐積載用ノ櫃(柱ヲ除ク)ハ總テ木製トシ動搖止門ハ火藥罐蓋ノ中央部ヲ押ヘサル如クスヘシ又火藥罐藥英等ト庫壁ノ間隔ハ輕巡洋艦以上ニ在リテハ少クモ六吋以上アルヲ要ス

第三節 彈藥庫

第五十一條 各種彈藥庫ノ構造竝ニ諸裝置ハ總テ砲火藥庫ニ同シ但シ八種砲以下ノ彈藥包ヲ格納スルモノニ在リテハ第二十條ヲ適用セス

第四節 黑色火藥庫

第五十二條 黑色火藥庫ハ可成他ノ彈火藥庫ト隔絶シ溫度ハ稍高クトモ濕氣ノ可成少キ位置即チ濕氣增加ノ原因トナルヘキ舷側、水罐等ト隣接セサル場所ニ設クルモノトス

第五十三條 黑色火藥庫ハ上下四周鋼板ヲ以テ水密ニ圍繞シ其ノ内面ニハ防熱裝置ヲ設クルコトナク厚サ一吋乃至一吋半ノ木板ヲ張り床面ニハ木板上ニ更ニ「リノリウム」ヲ貼敷スルモノトス

第五十四條 黑色火藥庫ニハ左ノ設備ヲナスモノトス

- (一) 換氣用トシテ給氣管及排氣管ヲ設ケ排氣用通風機械ヲ裝備シ庫内總容積ニ對スル空氣ヲ八分時以內ニ換氣シ

得ル如クス

(二) 注水裝置ハ砲火藥庫ニ同シ

(三) 點燈裝置ハ砲火藥庫ニ同シ但シ標示燈ヲ要セス

(四) 電氣寒暖計及檢濕器一個宛ヲ裝備シ溫度表示器及警鳴器ニ關シテハ砲火藥庫ノ場合ニ同シ

(五) 黑色火藥火工品ノ格納ハ庫内ニ適宜ノ櫃又ハ棚ヲ設ケ藥囊入ノモノハ火藥罐ニ容レ藥英或ハ格納筐入ノモノハ其ノ儘之ニ格納ス

第五十五條 第二十七條、第三十八條及第四十條ハ之ヲ黑色火藥庫ニ適用ス

第五節 水雷火藥庫

第五十六條 水雷火藥庫ハ水中發射管室附近其他適當ノ位置ニ設クルモノトス

第五十七條 水雷火藥庫ハ上下四周鋼板ヲ以テ水密ニ圍繞シ其ノ内面ニハ砲火藥庫ニ準スル防熱裝置ヲ設クルモノトス

第五十八條 水雷火藥庫ニハ左ノ設備ヲナスモノトス

(一) 換氣用トシテ給氣管及排氣管ヲ設ケ之ニ給氣若クハ排氣用通風機械ヲ備ヘ庫内總容積ニ對スル空氣ヲ八分時以內ニ換氣シ得ル如クス

(二) 注水裝置ハ砲火藥庫ニ同シ

(三) 點燈裝置ハ砲火藥庫ニ同シ但シ標示燈ヲ要セス

(四) 檢溫檢濕裝置ハ黑色火藥庫ニ同シ

(五) 水雷火藥庫ニ收ムヘキ下瀬火藥火工品若クハ筐入ノ儘或ハ棚ヲ設ケ之ニ格納スル如クス但シ水雷科用無煙火藥火工品ハ最寄ノ中口徑砲以下ノ砲火藥庫又ハ彈藥庫内ニ又同黃色火藥火工品ハ黑色火藥庫内ニ格納ス

第五十九條 第二十七條、第三十七條、第三十八條、第四十條

ハ之ヲ水雷火藥庫ニ適用ス

第六節 禮砲火藥庫及信號用火工品庫

第六十條 禮砲火藥庫及信號用火工品庫ハ可成艦橋附近ニ之ヲ設ケ其ノ構造ハ黑色火藥庫ニ準ス

但シ内面ニハ木板ヲ張ルコトナク全床面ニノミ「リノリウム」ヲ貼敷シ適宜ノ換氣及點燈裝置ヲナスモノトス

第六十一條 禮砲火藥庫ニハ檢濕器一個ヲ裝備スルモノトス

第七節 火工品類格納所(庫)

第六十二條 掌砲科ニ屬スル火管竝ニ水雷科ニ屬スル火管信管ハ小銃彈藥庫内ニ彈丸用信管ハ彈庫内ニ各區劃又ハ金屬製筐ヲ設ケテ之ニ格納シ何レモ其ノ庫内ト空氣ノ流通アル如クスルヲ要ス

但シ彈丸用信管ハ之ヲ裝著スヘキ彈丸ト同庫内ニ分納スルヲ原則トシ若シ事情之ヲ許ササル場合ハ最寄ノ他ノ彈庫内ニ併納スル如クスヘシ

第六十三條 發光器及救難浮標用料藥罐等ノ如ク其ノ内部ニ燐化石灰ヲ有スル火工品ハ濕氣ノ最少キ上甲板普通倉庫内ニ鎖鑰ヲ有スル區劃ヲ設ケ之ニ格納スル如クスヘシ

第八節 彈庫

第六十四條 彈庫ハ上下四周鋼板ヲ以テ水密ニ圍繞シ砲塔彈庫ニアリテハ床面ニ「チエツカードプレート」ヲ張り其ノ他ノモノニアリテハ床面人員ノ通路ニノミ「リノリウム」ヲ貼敷スルモノトス

第六十五條 彈庫ハ其隣接區劃中高温ノ場所アルトキハ之ニ對シテ砲火藥庫ニ準スル空所及防熱裝置ヲ設クルヲ要ス

第六十六條 彈庫ニハ換氣用トシテ給氣若クハ排氣用通風機械ヲ裝備シ庫内總容積ニ對スル空氣ヲ八分時以內ニ換氣シ得ル

ヲ要ス尙給氣口及排氣口ハ可成庫内ニ於テ反對ノ位置ニ設ケ氣流狀態ヲ良好ナラシムル如ク裝備ス

但シ高温ノ場所ニ隣接スル彈庫ニ對シテハ獨立ノ排氣口ヲ設ケ其ノ他ノ場合ニアリテハ他ノ開口ト兼用セシムルコトヲ得

第六十七條 彈庫用注水裝置ハ第三十二條ヲ除クノ外砲火藥庫ニ同シ

但シ所定彈丸格納ノ狀態ニ於テ彈槽(彈槽ナキ場合ハ彈丸)ノ最上部以下ノ空積(彈槽若クハ彈丸ノ高サヲ吃水線ヨリ高クシタル場合ハ其吃水線以下ノ空積、吃水線以上ハ次條ニ掲クル裝置ニヨリ注水)ニ對シ三十分時以內ニ滿水シ得ルヲ要ス、彈槽ハ漲水ヲ迅速ナラシムルタメ其ノ周圍ヲ水密ニ構成スルヲ例トス

第六十八條 彈庫ニハ入渠中ノ注水裝置トシテ別ニ一管ヲ設ケ必要ニ應ジ艦内消防主管ト連絡スル裝置ヲ設クルヲ要ス

第六十九條 彈火藥庫ノ上下四周ノ空所ニ入ルヘキ潛孔ハ彈庫内若クハ番兵ノ常ニ監視シ得ヘキ場所ニ設クルヲ原則トシ若シ已ヲ得スシテ他ニ之ヲ設クル場合ニハ規定ノ鎖鑰ヲ裝備スルヲ要ス

此ノ場合ニ於ケル潛孔蓋ハ螺釘ヲ以テ充分水密ニ閉鎖シ得ル如クスルヲ要ス

第七十條 彈庫ノ點燈裝置ハ砲火藥庫ニ準ス但シ標示燈ヲ要セス

第七十一條 彈庫ニハ檢溫檢濕裝置ヲ要セス

第七十二條 彈庫ヨリ火藥庫及供給室以外ノ場所ニ通スル傳聲管ニハ彈庫内ニ於テノミ容易ニ開閉シ得ル防水嘴子ヲ設クルヲ要ス

第七十三條 彈庫内ニ於ケル各種彈丸ノ格納ハ左記ニ據ルヘシ

(一) 砲塔砲用彈丸ハ彈槽ニ格納ス

(二) 中口徑以下ノ彈丸ハ彈臺或ハ彈棚ヲ設ケテ之ニ格納ス
第七十四條 第三十七條及第三十八條ハ之ヲ彈庫ニ適用ス

第九節 彈火藥ノ積卸ニ關スル設備

第七十五條 砲塔砲彈火藥ノ積卸ニ對シテハ左ノ設備ヲナスモノトス

(一) 各砲塔毎ニ砲塔所在ノ露天甲板ヨリ彈庫ヲ經テ火藥庫ニ直通スル一貫垂直ノ積卸口ヲ設クルヲ例トス尙砲塔彈庫内ニハ彈丸積込ノ際砲火藥庫扉ヲ毀損セシメサル様移動防護物ヲ設備ス

(二) 各積卸口ノ幅員ハ彈丸ハ其儘、裝藥ハ火藥罐ニ收納ノ儘ニテ何レモ縱吊昇降スルニ便利ナル如クスヘシ

(三) 各積卸口附近ノ舷側ニハ彈火藥積卸用「ダビット」ヲ備ヘ之ニ對シテ各一基宛ノ整動機附卷揚機械ヲ裝備ス
甲板ト彈火藥庫間ニ於ケル彈火藥ノ揚卸ニハ主トシテ砲塔内水力豫備揚彈藥機竝ニ砲塔壁ニ附著セル「ダビット」或ハ「フエヤークター」等ヲ使用スル如クス

(四) 若シ構造上之ニ適セサル場合ハ前號ノ卷揚機械ヲ兼用スルカ又ハ別ニ適當ナル卷揚機械ヲ裝備ス此ノ場合ニ於テハ卷揚機械ノ管制位置ヨリ積卸口ヲ直視シ得ル如クスルヲ最モ緊要トス

(五) 露天甲板ノ各積卸口側ニハ彈火藥積卸用「ダビット」座ヲ設ケ各砲塔ニ共通ノ移動「ダビット」ヲ使用シ得ル如クス

(六) 但シ豫備揚彈藥機ヲ使用シ得サルモノニアリテハ各其ノ砲塔專用ノ「ダビット」ヲ設クルヲ要ス

彈火藥積卸ニ要スル整動機附卷揚機械ハ單索ヲ以テ一

個ノ彈丸ヲ一秒時一米以上ノ速度ニテ昇降シ得ル力量ヲ有シ且ツ速度ノ調節容易ナルヲ要ス尙該卷揚機械ハ載炭用揚艇用等ニ兼用スルモノトス

第七十六條 砲塔砲用以外ノ彈火藥類ハ固有ノ揚彈藥機ヲ用フル便宜ノ卷揚機械或ハ人力ニテ積卸ヲ行フモノトス

大正十年十二月二十六日(內令五〇六)

大正九年內令第十三號新造艦船彈火藥庫裝規程中左ノ通改正ス

第二十八條 砲火藥庫ノ防熱裝置ハ左記ニ據ルヘシ

砲火藥庫ノ内面(他ノ砲火藥庫トノ共通壁面ヲ除ク)ハ上下四周共連續セル防熱裝置ヲ施スヘシ即チ鋼材面ニ厚サ約四分ノ一吋ノ石綿板若クハ鑛滓綿板等ノ如キ不燃物質ヲ張り詰メ其ノ上ニ厚サ適宜ノ「コークボード」ヲ張り其ノ表面ヲ薄キ「ビルデングペーパー」若クハ「セラビライト」(B)等ノ如キ耐濕耐熱ノ物質ヲ以テ大略氣密ナル程度ニ被覆シ其ノ上ニ厚サ約八分ノ五吋ノ木板ヲ張り其接合ハスヘテ實効トスルモノトス
但シ床面ニアリテハ木板ノ厚サハ一吋二分ノ一ノモノヲ用ヒ其接合ハ衝接トシ糸類等ヲ以テ輕ク填隙ヲ行ヒテ略水防トナル様ニシ且ツ其全面ニ亘リテ「リノリユム」ヲ貼敷スルモノトス